

海老名市立今泉小学校 学校運営協議会 議事録
(令和4年度 第2回)

- 1 日時 令和4年9月26日(月) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立今泉小学校 CSルーム
- 3 出席委員 木島智恵美委員、守屋佐千子委員、中野隆則委員、本多正樹委員
和田修二(校長)、住田晶子(教頭)、石川雄一郎(教務)

4 会議の内容 (進行: 委員長 木島智恵美)

○開会

○これまで(5月~9月)の学校の様子についての説明(校長)

感染症対策や熱中症対策を講じながら、年間計画とおりに実施してきた。

コロナで2年間実施できなかった教育活動では、子どもが生き生きとしていた。

- ・大型倉庫建て替え工事
- ・1年生交通安全教室
- ・6年生国会議事堂見学
- ・しいのみ集会
- ・5年生野外教育活動
- ・5年生田植え体験活動
- ・防犯教室や非行防止教室
- ・租税教室
- ・春のえびなっ子スクール
- ・おはやし体験
- ・6年生 日光修学旅行
- ・バス遠足
- ・扇町おもいで祭りに6年生出店
- ・除草作業
- ・引き渡し訓練
- ・不審者対応訓練

【協議】

中野: 今泉小学校の特徴として、地域との結びつきがある。下今泉のお囃子や扇町のおまつりなど、子どもたちはいい経験をしている。

木島: 地域の協力や外部講師を入れての活動が多い。学校応援団とも連絡を取りながら進めている。春のえびなっ子スクールのスプリングコンサートも大盛況(約120名参加)だった。

校長: コロナ禍で子どもの健康や安全を守ることは大事。コロナを正しく恐れて、コロナ対策を講じながらも、学校教育ならではの学びをさせたい。そのためには外部の方の力をぜひ貸していただきたい。オンラインライブ朝会の校長講話では、学校応援団の木島さんと中野さんに特別出演していただいた。

○これからの学校行事等についての説明（教頭・石川）

◆運動会（10/15 開催）

教頭：昨年度との違いは、分散ではなく1～6年生が一斉に行う。

昨年度は、運動会をしていない学年は学習していた。

今年度は、お互いの表現や競技を見ることができる。

来賓は学校運営協議会委員の皆様だけ。

【協議】

守屋：お弁当を子どもと食べないから、場所取りの必要はないだろう。

本多：テントは禁止だが、キャンプ用のイスは持ってきてもいいのか。

木島：高齢者の方は、校庭の周りでイスに座りたいと思う。高齢者エリアがあるとい

い。

石川：高齢者席等は設けない。休憩スペースとして、体育館と北棟の2階ベランダを開放する予定。体育館内にはイスを用意する。

本多：体育館を開放すれば、よい休憩所になる。

石川：過去にイスや脚立に乗って、ケガをした保護者がいたので注意したい。

木島：先生方は当日忙しいと思うので、パパボラ等に見回りなどをお願いできるとよい。

本多：全学年同時実施なので、運動会中に帰宅する保護者がいることも想定できる。

校長：他学年の練習の成果を全児童に見せたい。本校は運動場が広く、徒競走も2箇所に分けて実施して、混雑を緩和したい。

木島：保護者にとっても、1年生の姿を見て子どもの成長を実感し、6年生の姿を見て感動することは、保護者自身の成長につながる。

◆今小フェスティバル（11/19 開催）

石川：今年度は1時間目が授業参観。2～4時間目が地域の皆さんと触れ合う時間。青健連、民生、外部スポーツ団体、図書ボラ、花咲か等、今までも協力していただいていたところに加え、今年度から協力していただくところもある。

運営にあたっては、保護者ボランティアを10月上旬に募集する。パパボラにはドッジボールを依頼する予定。

実施方法は10:00～11:00と11:00～12:00の前半後半に分けて、校舎内と運動場のブースを交代しながら行う。

校長：今回の主催者は学校と学校応援団とする。

本多：これまではPTA主催の「ふれあいパーク」だった。

中野：私は青健連として参加するが、一人でも多くの子どもに来てもらえるようにしたい。短時間で活動できる工作を考えたい。保護者も参加してほしい。

木島：1時間でいろいろなブースを回るので、5～10分で作れるものがよい。

私が参加する学校応援団の方は、短時間で缶バッチが作れるようやり方を工夫する。

守屋：私が参加する民生児童委員は、参加が初めてなので、保護者に民生児童委員はどんなものか知ってもらう掲示をするとともに、みんぴよんの缶バッチを来た子に渡したい。

石川：現時点の活動内容は、ボーイスカウトがキムスゲーム（記憶ゲーム）、職員のブース、職員音楽部による今小コンサート、ゆるりら、音楽クラブ、プロの演奏、PTAの空き缶タワー、ピンポンカップ in、スポーツ団体のストラックアウト、リフティング、花咲かクラブの寄せ植え体験、EBINAダンスなど。

校長：学校と地域で行う行事。子どもたちには地域に見守られていることや地域とのつながりを分かってほしい。

守屋：何を目的として行うのか、全面的に出すとよい。

石川：学校と地域のつながりを大切にしていけるメッセージを配信したい。

木島：子どもだけのイベントではない。地域を巻き込んでいきたい。

校長：初の試みなので多くの反省点は出ると思うが、その反省を踏まえて次年度以降取り組んでいきたい。

○今後のPTA活動のあり方について

校長：今後のPTA活動のあり方について、PTA本部と話し合いをしてきた。

家庭によっては、共働きだったり、幼い子がいたり、介護している人がいたり、家庭の状況が違う中で、今までのように継続していくことは難しいと感じている。PTAの適正化に向けて、9月1日にアンケート調査を行った。

石川：PTAの意思確認については、約6割の人が加入の意思を表明している。

常置委員会の廃止については、立候補制でボランティアを募る、活動の見直しを図る（縮小の方向）については96%賛成。

ボランティアに立候補するかについては、20%が「する」または「活動内容によっては検討する」と回答している。

自由記述では、571件中200件の回答。PTAに加入しないことによる子どもへの影響、活動の見える化、登校班・立哨の運営方法などの記述が多かった。

また、地区役員の仕事内容等を見直してほしい、時代に合わせた形にしてほしい、先生方の負担が増えないPTA改革を、という意見があった。

PTA活動に参加するよい面としては、他学年の保護者の方と知り合いになれたこと、子どもたちの学校生活の様子が見られたこと、人の為に役に立つことができたこと等があった。

守屋：PTA活動がコロナで見えづらくなった。昔は、小さい子がいる家庭や介護がある家庭、共働きの家庭を役員から外していた。思いやりをもってやっていけないといけない。

木島：PTAに入る場合と入らない場合の違い、子どもへの影響が分からない。そこを明確にして、加入について意思決定できるようにしたい。登校班や立哨については外部委託の方法も検討したい。

本多：役員になるメリット、デメリット、会員になるメリット、デメリットが見えてこない。今月下旬に臨時総会を書面開催で行う。1月の新入生保護者説明会でPTA加入の意思確認やボランティア制について話す。

校長：PTA加入非加入によって、子どもに差が生じてはいけない。PTA会費は学校全体の子どもに還元できることに使いたい。

石川：登校班についてはPTAと切り離し、登校見守り隊として立ち上げることを検討中。

校長：PTAに加入しなければ、登校班に入れないことはない。

本多：市内小学校では登校班による登校は多いのか。

校長：登校班がないのは3校程度。昨年の本校のアンケート調査では、約75%は登校班での登校を希望している。登校班をやめたいと言っている人もいる。

木島：登校班を別組織にする？

本多：来年度は登校見守り隊が運営することを検討している。

石川：10月には令和5年度のことについて話し合いをもつ。登校見守り隊執行部が組織の核になる方法を検討している。

校長：PTAをなくしたくはない。保護者と学校がよりよい形で連携できることを望んでいる。

○「地域とともにある学校」について（校長）

校長：令和4年度チーム今小計画図の最新版では、地域の方や外部講師と連携した教育活動が多いことが分かる。今後も学校応援団と連携し、地域の力を借りながら学校教育を充実させたい。

○情報提供等

- ・次回開催日 11月29日（火）10:00～
- ・音楽鑑賞会を参観していただく予定。

○閉会